

## 第 87 回町田市環境審議会 議事要旨

【日時】2024年4月30日（火）18:00 - 20:00

【場所】町田市役所2-2会議室

【出席者】

委員：藤倉委員（会長）、山口委員（職務代理）、浅輪委員、尾崎委員、片田委員、北川委員、小峰委員、利光委員、本目委員、木津委員、山口委員、米森委員

事務局：環境資源部 塩澤

環境政策課 池澤、高橋、土志田、田村、野地、島田、河井、西谷

傍聴：2名

【資料】

資料1 第3次町田市環境マスタープラン

資料2 第3次町田市環境マスタープラン概要

資料3 町田市環境白書2023

資料4 第3次町田市環境マスタープランの一部改定について

資料5 町田市環境マスタープランに関するスケジュール（予定）

参考資料1 第12期町田市環境審議会委員名簿

当日配布 諮問書（写）

【議題】

第3次町田市環境マスタープランの概要について（資料1、2）

- 事務局から資料に基づいて、説明を行った。

第3次町田市環境マスタープランについて

浅輪委員 次回以降の審議会では、目標数値の達成状況について議論をしたい。

尾崎委員 第3次町田市環境マスタープランにおいて、重点プロジェクトに対する目標数値は設定しているか。

事務局 重点プロジェクトごとの個別目標値はないが、関連する成果指標を複数設けている。

片田委員 基本目標2に関する取組として、市として具体的にどのようなことを実施しているか。

事務局 外来生物対策や、生物多様性に関する情報発信等を行っている。

北川委員 町田市内において、自然を保護すべきエリアは存在するか。

事務局 現在市内では11か所の特別緑地保全地区が存在し、動植物の生息地となる緑地等の保全を図っている。

小峰委員 市が目指す将来像を実現するため、事業者として何ができるか、今一度検討したい。また、重点プロジェクト4の一環として実施していた受け取りボックス増設の取組は、出荷野菜のサイズ等の課題があり、取り止めとなった。

- 利光委員 車両のFCV化については、現状のドライバー不足の状況下では、離れた水素ステーションまで充填のために車両を回すことが困難である。以前視察したEUでは自治体と事業者が連携し、EV普及を推進しているようだ。このように、今後は市と連携し、車両のEV化を進めていきたい。
- 本目委員 より効果的な施策を進めていくために、今後は成果指標の妥当性についても議論ができればと思う。
- 木津委員 第3次町田市環境マスタープラン策定時、市民の意見をどのように反映したか。また、本計画の内容を市民に普及させていくための取組は行っているか。
- 事務局 アンケートやワークショップ等を通じて広く市民の意見を収集した。また、本計画の普及啓発の一環として、イベントの開催や環境に特化した広報紙の作成を行っている。
- 山口委員 ごみの有料化によってごみの発生量が減少したとあるが、有料化の反動で不法投棄が増える等の実態について把握しているか。また、基本目標2では成果指標の一つとして、「みどりとのふれあいに満足している市民の割合」が掲げられているが、人の主観によらない指標にできないか。
- 事務局 第3次町田市環境マスタープラン策定時、客観的な成果指標を他にも設定できないか検討したが、精査した結果、現在の成果指標を設定することとなった。
- 事務局 監視カメラの設置や見回り巡回等、不法投棄を発生させない取組を実施している。現状は、大量の不法投棄が発生したとの報告は受けていない。
- 米森委員 第3次町田市環境マスタープランを市民に普及させていくため、今後どのような取組が必要と考えているか。
- 事務局 今後の会議でのご意見を踏まえ、普及啓発を行う新たなターゲットや、具体的な普及啓発の手法を検討していきたい。
- 山口委員(職務代理) 駅前デジタルサイネージを活用した周知等、新しい技術を活用して市民に普及啓発を行うことが重要である。
- 藤倉会長 第3次町田市環境マスタープランはコロナ禍の期間で策定した計画である。次回以降の会議では、コロナ前後での社会の大きな変化も踏まえ、市としてとるべき施策を改めて検討してもらいたい。

### 第3次町田市環境マスタープラン一部改定に向けたこれまでの経過と今後の進め方について (資料3、4、5)

- 事務局から資料に基づいて、説明を行った。

#### 今後の進め方について

- 藤倉会長 重点プロジェクトの見直しについて、主に温暖化対策に係る内容を取り扱うという認識で良いか。
- 事務局 ご認識のとおりである。主に温暖化対策部分を対象とし、その他の内容については必要に応じて見直すという方針である。

尾崎委員 第3次町田市環境マスタープランでは2030年度33%削減、国では2030年度46%削減という目標が掲げられている中で、新規目標値はどのように設定する方針か。

事務局 市として実効性の高い取組に基づいた目標値を検討していきたい。

浅輪委員 次回会議にて、成果指標の目標（案）は提示予定か。

事務局 庁内すり合わせ等の調整事項があり、現時点で回答が難しい。2030年度における削減目標（案）は提示予定である。

浅輪委員 削減目標（案）提示の際、見直し前後で比較できるものがあるとわかりやすくして良い。

北川委員 市民への普及啓発の一例として、環境学習があるが、市内の学校で取り組んでいる事例はあるか。

事務局 具体的な事例は把握していないが、普及啓発の取組の一環として、環境学習を計画内に含めたいと考えている。

米森委員 目標値を検討する際の削減対策の考え方として、例えばエネファームの設置奨励金の新設に伴い、削減される温室効果ガス排出量を推計し、その他の対策も含め、積み上げて目標値を検討するという認識で良いか。

事務局 ご認識のとおりである。ただし、データ制約等の関係から、対策によっては削減量の推計が困難な場合もある。

藤倉会長 フォアキャストとバックキャストを組み合わせ、目標値の検討を行うことが重要である。

尾崎委員 成果指標のうち、市民の満足度に関する指標が複数採用されているが、これはアンケート調査結果を基にした数値か。

事務局 そのとおりである。無作為抽出で選ばれた市民3,000人を対象に、毎年実施しているアンケート調査結果から算出している。

尾崎委員 アンケートの回答者数は1,000人程度なので、数十万人いる町田市の人口に対して統計的に耐えうるものであるのかは確認した方がよい。

木津委員 長期的な脱炭素社会を目指す上では、CO<sub>2</sub>を削減するだけでなく、削減できず一定程度残余する分については吸収源を活用していく視点も重要ではないか。

- 事務局から今後のスケジュールについて説明を行った。

#### 【閉会】

藤倉会長 本日の審議会はこれで終了といたしたい。

以上